

平成29年1月26日提出

教育委員会議 議題3 別冊

## ハイスクールビジョン推進プログラム

平成29年(2017年)1月

広島市教育委員会

## 目 次

	頁
<u>I ハイスクールビジョン推進プログラムの策定に当たって</u>	1
<u>II 全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成〈共通性の確保〉</u>	4
<u>III 多様な学習ニーズへのきめ細かな対応〈多様化への対応〉</u>	6
<u>IV 共通性を確保した上で提供する多様な教育の推進〈学校ごとの将来構想〉</u>	8
1 全日制課程	
(1) 普通科(普通コース・専門コース)	
① 基町高等学校【普通コース・創造表現コース】	10
② 舟入高等学校【普通コース・国際コミュニケーションコース】	12
③ 沼田高等学校【普通コース・体育コース】	14
④ 美鈴が丘高等学校【普通コース】	16
(2) 専門学科(商業科・工業科)	
① 広島商業高等学校【みらい商業科：秘書・観光・販売・情報企画・情報処理・金融・経理・進学コース】	18
② 広島工業高等学校【機械科・自動車科・電気科・情報電子科・建築科・環境設備科】	20
2 定時制課程及び通信制課程	
(1) 定時制課程	
① 広島工業高等学校	22
② 大手町商業高等学校	24
(2) 新しいタイプの高等学校(仮称)	26
3 中高一貫教育校	
(1) 広島中等教育学校・安佐北高等学校	28
<u>V 教育委員会の役割</u>	30
1 市立高等学校における教育の質の確保・向上に向けた取組	
2 20年後を見据えた市立高等学校の在り方の検討	

## I ハイスクールビジョン推進プログラムの策定に当たって

### 1. プログラム策定の目的と経緯

本市教育委員会では、これまで推進してきた「魅力ある高校づくり」の一層の充実に取り組むため、市立高等学校の将来構想となる「広島市ハイスクールビジョン」（以下「本ビジョン」という。）を策定し、今後の本市高等学校教育の基本方針を示しました。

「ハイスクールビジョン推進プログラム」（以下「推進プログラム」という。）は、本ビジョンの行動計画として策定するものです。

策定に当たり、平成27年度から、各市立高等学校において「ハイスクールビジョン推進プログラム検討委員会（各学校において名称は異なる）」を設置し、検討を重ねてきました。

### 2. プログラムの計画期間

本ビジョンの計画期間に合わせ、平成28年度（2016年度）から平成37年度（2025年度）までの10年間を計画期間とし、5年経過した時点で必要に応じ、中間見直しを行います。

### 3. プログラムの概要

広島市では、「心身ともにたくましく、思いやりのある人」を基本理念とし、子どもたちに、生きるための基礎・基本をしっかりと身につけさせ、規範性、感性、体力、コミュニケーション能力の4つの力をバランスよく身に付けさせる教育を推進しています。

本ビジョンでは、広島市の高等学校教育が目指す人間像として、「志高く、世界に誇れるまちHiroshimaを創造する人材」として掲げ、具体的な人間像として「平和な社会の発展に寄与しグローバル社会で活躍できる人材」や「郷土を愛し本市を中心とした都市圏の活性化に貢献できる人材」の育成を目指すこととしています。

本ビジョンの行動計画である推進プログラムでは、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を総合した力である「生きる力」をはぐくむ教育の充実を図るため、以下に掲げる取組を推進します。

#### (1) 全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成〈共通性の確保〉

「生きる力」をはぐくむ教育の充実を図るという観点から、市立高等学校が共通して取り組むべきことを具体化し、市立高等学校が一体となって、市民社会の一員として参画し貢献する意識の醸成（人格形成・自己実現）と社会・環境の変化への適応に必要な力の育成を図ります。

(2) 多様な学習ニーズへのきめ細かな対応〈多様化への対応〉

高等学校教育が、単に受験のための教育や実践的な体験や活動を伴わない専門教育に終始することなく、一人一人の生徒の個性の伸長や幅広い視野の獲得といった多様な観点から、各市立高等学校が独自性を発揮し、それぞれの学校や学科の特色に応じた魅力あるきめ細かな教育を推進します。

(3) 共通性を確保した上で提供する多様な教育の推進〈学校ごとの将来構想〉

市立高等学校教育の質の確保・向上を図っていくという観点から、優れた才能や個性を有する生徒への対応をはじめ、学び直しや特別な支援が必要な生徒への対応など、幅広い学習ニーズに応え、多角的できめ細かな教育を推進します。

「ア 全日制課程 普通科(普通コース・専門コース)」においては、高等教育機関への単なる通過点としてではなく、生徒一人一人が、将来に就くべき職業を見据え、主体的に目標や意欲を持って学び、社会に貢献する基盤を培います。

「イ 全日制課程 専門学科」においては、技術革新や産業構造の変化に対応するとともに、地域の産業・社会の要請に応じた実践的な職業教育をより充実させ、職業人として求められる専門的な能力の基盤を培います。

「ウ 定時制課程及び通信制課程」においては、従来からの勤労青年のための教育機関としての役割だけでなく、不登校・中途退学者等への学び直しの機会提供や困難を抱える生徒の自立支援等の多様な学習ニーズに応え、義務教育段階からの学び直しを支える体制を強化するとともに、生活指導や教育相談、進路指導等をより充実させ、社会的・職業的に自立するために必要な力を培います。

「エ 中高一貫教育校 全日制課程 普通科」においては、中等教育学校で6年間一貫した特色ある教育課程を編成し、前期課程・後期課程における教育活動をより一層効果的に展開することにより、生徒一人一人の個性や能力の伸長を図ります。

ア 全日制課程 普通科(普通コース・専門コース)

- 基町高等学校【普通コース・創造表現コース】
- 舟入高等学校【普通コース・国際コミュニケーションコース】
- 沼田高等学校【普通コース・体育コース】
- 美鈴が丘高等学校【普通コース】

イ 全日制課程 専門学科(商業科・工業科)

- 広島商業高等学校【みらい商業科：秘書・観光・販売・情報企画・情報処理・金融・経理・進学コース】
- 広島工業高等学校【機械科・自動車科・電気科・情報電子科・建築科・環境設備科】

ウ 定時制課程及び通信制課程

- 広島工業高等学校
- 大手町商業高等学校
- 新しいタイプの高等学校（仮称）

エ 中高一貫教育校 全日制課程 普通科

- 広島中等教育学校・安佐北高等学校

(4) 教育委員会の役割

高等学校を設置・運営する教育委員会として、国の動向を見据えるとともに、様々な国の支援策等を活用しつつ、市立高等学校における教育の質の確保・向上に向け、教職員の資質能力の向上、組織体制の充実、教育研究組織の活性化、高大接続改革への対応、地域・産業界との連携、教育環境の整備等を推進します。

また、20年後の市立高等学校の姿を視野に入れ、学科改編や入学定員、通学区域のほか、県立・市立・私立の機能分担の在り方について検討します。

Ⅱ 全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成〈共通性の確保〉

（ヒ）Ⅲ 2 (1) 1

○ 市民社会の一員として参画し貢献する意識の醸成（人格形成・自己実現）と社会・環境の変化への適応に必要な力の育成

取組名	取組の目的と内容
市民社会の一員として参画し貢献する意識の醸成（人格形成・自己実現）と社会・環境の変化への適応に必要な力の育成  ○確かな学力をはぐくむ ○豊かな心をはぐくむ ○健やかな体をはぐくむ	① 義務教育段階の取組の成果を発展させ、確かな学力、豊かな心、健やかな体をはじめとして、多角的・多面的に吟味し見定めていく力（いわゆる「クリティカルシンキング」）や創造力、情報活用能力、ICTを理解し使いこなす科学的素養など、これからの時代に求められる資質・能力を育成する。 ② 主体性や多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、平和希求の心、社会に貢献する意欲といった資質・能力を育成する。 ③ 知識・技能を活用して、自ら課題を設定し、その解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を育成する。 ④ グローバル化や情報化が進展する社会の中では、先を見通すことが難しい状況が生じており、子どもたちが将来就くことになる職業の在り方についても、技術革新等の影響により大きく変化すると予測されている中で、これらに対応するための資質・能力を育成する。 ⑤ 将来にわたり活力ある社会を持続・発展させるため、これまで以上により重点的に一人一人の個性を生かしながら人間力を高め、社会の担い手として必要な力を育成する。

観点	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
確かな学力をはぐくむ教育の充実	【重点】 学力向上推進事業指定校による実践的授業研究		学力向上推進事業指定校による研究成果の普及 （豊かで深い学び・ICT活用能力等）			ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	研究成果を踏まえた新たな実践的授業研究の充実			
豊かな心をはぐくむ教育の充実	各学校における教育活動全体を通じた道徳教育の実施						道徳教育の更なる充実			
健やかな体をはぐくむ教育の充実	平和教育プログラムの実施						平和教育プログラムの更なる充実			
健やかな体をはぐくむ教育の充実	心身ともにたくましい生徒を育成する教育の実施					心身ともにたくましい生徒を育成する教育の更なる充実				

観点	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	
教育課程の編成・実施	【重点】					ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	年次進行による次期学習指導要領の実施				
	平成34年度から年次進行により実施される次期学習指導要領に対応する教育課程・教育内容の検討および授業改善の実施						研究成果を踏まえた新たな実践的研究の充実				
	教育課程の編成・実施に係る研究指定校の検討(各教科・総合的な学習の時間等)		教育課程の編成・実施に係る研究指定校による実践的研究								
グローバル人材の育成	【重点】					ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	英語教育推進プランの実施(次期学習指導要領への対応)				
	英語教育推進プランの実施 (オールイングリッシュによる授業の実施 英語教員悉皆研修等の実施)						グローバル人材の育成を目指す教育の更なる充実				
	広島の伝統文化等を学ぶ教育実践例の整理・検討		姉妹校提携・交流についての検討		姉妹校提携・交流の推進						
	【重点】										
	国際理解に係る教育実践例の整理・検討										

全ての生徒が身に付けるべき資質・能力を育成するため、5つの観点「確かな学力をはぐくむ教育の充実」「豊かな心をはぐくむ教育の充実」「健やかな体をはぐくむ教育の充実」「教育課程の編成・実施」「グローバル人材の育成」からなる共通の取組を推進します。

また、各高等学校においては、社会に開かれた教育課程を編成・実施するとともに、国際平和文化都市ヒロシマで学んだグローバル人材を育成するため、「生きる力」をはぐくむという観点から「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つを柱とした特色ある取組を推進します。

1「(ヒ) Ⅲ 2 (1)」とは、「広島市ハイスクールビジョン Ⅲ ハイスクールビジョンの実現に向け、目指す人間像と重点を置く教育 2 重点を置く教育の内容 (1) 全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成 (共通性の確保)」を指す。

Ⅲ 多様な学習ニーズへのきめ細かな対応〈多様化への対応〉

(ヒ)Ⅲ 2 (2) 2

取組名		取組の目的と内容									
多様な学習ニーズへのきめ細かな対応		① 様々な幅広い学習ニーズを踏まえ、各高等学校が、それぞれの学校や学科の特色に応じた魅力ある教育課程を編成・実施する。 ② 教育課程を軸にした授業改善及び組織運営の改善に一体的・全体的に迫ることができるよう、豊かで深い学びとカリキュラム・マネジメントを連動させる。 ③ 国の施策や全国の高等学校等における先進的な取組における成果等を踏まえながら、生徒一人一人の多様な進路に応じた教育に重点をおく。									
28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
(再掲) 【重点】					ハイスクールのビジョン推進プログラム中間見直し						
学力向上推進事業指定校による実践的授業研究		学力向上推進事業指定校による研究成果の普及 (豊かで深い学び・ICT活用能力等)					指定校による研究成果を踏まえた新たな実践的研究の充実				
(再掲)		教育課程の編成・実施に係る研究指定校の検討(各教科・総合的な学習の時間等)					指定校による研究成果を踏まえた新たな実践的研究の充実				
【重点】		高校生交換留学制度の拡大 ・長期派遣プログラム ・短期派遣プログラム		留学プログラムによる成果の普及			高校生交換留学制度の更なる充実				
		生徒一人一人の多様な進路に応じた教育を推進するための支援体制の充実					生徒一人一人の多様な進路に応じた教育の更なる充実				



28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
【重点】					ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し				
キャリア教育に係る実践例の整理・検討		【専門学科】 インターンシップ制度の更なる充実				主体的なキャリア形成に係る教育の更なる充実			
		【普通科】 新たなインターンシップ制度の実施							
学校と就職コーディネータとの連携の推進					就職コーディネータと連携した教育の更なる充実				

取組名		取組の目的と内容							
多様な学習ニーズへのきめ細かな対応		④ 豊かな心を育む取組、相談体制、生徒指導などをこれまで以上に充実させる。							
28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
(再掲)					ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し				
各学校における教育活動全体を通じた道徳教育の実施						道徳教育の更なる充実			
(再掲)									
平和教育プログラムの実施						平和教育プログラムの更なる充実			
ボランティア活動の推進						ボランティア活動推進の更なる充実			
【重点】									
相談体制・生徒指導体制の更なる充実					相談体制・生徒指導体制の更なる充実				

2 「(ヒ) Ⅲ 2 (2)」とは、「広島市ハイスクールビジョン Ⅲ ハイスクールビジョンの実現に向け、目指す人間像と重点を置く教育 2 重点を置く教育の内容 (2) 多様な学習ニーズへのきめ細かな対応 (多様化への対応)」を指す。

## 1 全日制課程

### (1) 普通科（普通コース・専門コース）

#### ○ 普通コース

将来、多様なキャリアを形成して、国際社会で活躍する人材や、地域社会に根ざし郷土に貢献する人材を育成する教育を推進します。

大学や専修学校等を卒業後、グローバル・リーダーとなる人材のほか、培った技術や知識を地域の産業、まちづくり、観光の振興、福祉や教育の充実、情報化の推進等のために還元することができる人材を育成する教育を推進します。その際、生徒の志やスキルに応じて自ら進路を選択し、拓くために必要な力を身に付けさせる教育を推進します。

#### ○ 専門コース

「普通科」の趣旨を踏まえつつ、大学との連携や、その道に優れた講師の招へい等により、生徒個々の才能を引き出しながら専門的スキルや競技力を向上させ、各分野において国内外で活躍する人材を育成する教育を推進します。

- 基町高等学校【普通コース・創造表現コース】
- 舟入高等学校【普通コース・国際コミュニケーションコース】
- 沼田高等学校【普通コース・体育コース】
- 美鈴が丘高等学校【普通コース】

### (2) 専門学科

地域経済の変化に即応し、地元製造業やサービス産業等のニーズに応じた、地域産業界の中核となるスペシャリストを企業と連携して育成する教育を推進します。

- 広島商業高等学校【みらい商業科：秘書・観光・販売・情報企画・金融・経理・進学コース】
- 広島工業高等学校【機械科・自動車科・電気科・情報電子科・建築科・環境設備科】

## 2 定時制課程及び通信制課程

課程の枠組みに捉われないフレキシブルな学びの実現を図り、再チャレンジや学び直しが可能で、他者と協力・協働して社会に参画し、自ら主体的にキャリア形成できる人材を育成する教育を推進します。

### (1) 定時制課程

- 広島工業高等学校
- 大手町商業高等学校

### (2) 新しいタイプの高等学校（仮称）

※平成 30 年 4 月開校予定

## 3 中高一貫教育校

6年間を通して高度な英語教育等を提供し、大学卒業後には、英語によるコミュニケーション能力や高い理想と品格を備えたグローバル・リーダーとして国内外で活躍する人材を育成する教育を推進します。

- 広島中等教育学校・安佐北高等学校

次ページ以降、各市立高等学校の将来構想について、以下の項目により記載することとします。

ア 学校教育方針

イ 目指すべき学校像

ウ 目指すべき生徒像

エ(エ-1)学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

(エ-2)コースにおける取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

<sup>3</sup>「**ビ**Ⅲ 3」とは、「広島市ハイスクールビジョン Ⅲ ハイスクールビジョンの実現に向け、目指す人間像と重点を置く教育 3 共通性を確保した上で提供する多様な教育の方向性」を指す。

# 1 全日制課程

## (1) 普通科（普通コース・専門コース）

### ① 基町高等学校

#### ア 学校教育方針

学問の修得や芸術文化の探究を通じて、自己の能力と人格を主体的に磨き、優れた知性と品格、生涯にわたって学び続ける力を身につけることにより、多様化が進む時代の中で、人類の幸福に貢献する崇高な志と未来を切り拓く豊かな想像力を持った有為な人物の育成に努める。

#### イ 目指すべき学校像

- すべての学校教育活動を通じて、確かな学力及び社会的・職業的自立に向けて必要な能力の育成を図り、生徒の高い志を育む学校
- 知性と品格を兼ね備えた豊かな人間性を培う学校
- 組織運営や各教育活動について、不断の改善を図る学校
- 社会に開かれた学校

#### ウ 目指すべき生徒像

##### 【目指すべき生徒像】

- 高いレベルの知識・技能及び思考力・判断力・表現力を備えた生徒
- 課題の解決に向け主体的・協働的に学ぶ生徒
- 生涯にわたって学び続ける生徒

##### （卒業時に身に付けておくべき力）

- ・ 生きて働く知識・技能を習得し、自ら課題を発見・分析し、計画的に処理して解決することができる生徒
- ・ 積極的に自己の意見を表現するとともに、多様な他者の考えや立場を理解しつつ協働していく力
- ・ 自己の可能性を含めた肯定的な理解に基づき、主体的に判断してキャリアを形成していく力

##### 【10年後にあるべき姿】

- 自らの専門性を鍛え、様々な分野で人々の幸福に貢献していく有為な人

##### （社会に出て身に付けたい力）

- ・ 企画力、調整力、実行力
- ・ グローバルな視野をもった思考力
- ・ 学びを主体的に人生や社会に生かす力

## エ-1 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校での学習に加え、各自が目標を持ち計画的に学習を進める指導を行い、最難関大学をはじめとした希望する上級学校への進路実現を果たす生徒が増加した。</li> <li>● 既存の学力の伸長に加え、生涯にわたり主体的に学び続ける力を育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学びに向かう力の涵養を図るため、全ての生徒の主体的な学びの実現に向けた授業改善を推進する。</li> <li>○ 自己の在り方生き方を考えることをとおした探究的な学習の充実を図り、教育課程の編成・実施について研究を進める中で、総合的な学習の時間の見直しを行う。</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校行事等での生徒の自主性・主体性を促す指導や地域交流の充実の結果、他者を思いやり理解を深めようとする生徒が増加した。</li> <li>● 生徒の自主性・主体性を促す指導を徹底し、他者と協働する力を更に育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまで以上に生徒の主体性を促す指導を徹底し、目標に向かって学校全体として協働する力を育成するため、特別活動（生徒会活動・学校行事）や、教育課程外における地域交流活動とのつながりを整理する。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自が目標に向かって努力し困難さに立ち向かう心の育成が図られるとともに、体育的行事の見直し等により心身の成長のバランスが取れた生徒が増加した。</li> <li>● 自分とどのように向き合うかといった内面をコントロールする力を育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心身ともにたくましい生徒を更に育成するため、生徒が自己を振り返る機会や、他者に相談できる支援体制の更なる充実を図る。</li> <li>○ 生徒の体を動かすことへの意欲や健康への意識を向上させるため、保健体育科の授業や、特別活動における健康安全・体育的行事の更なる充実を図る。</li> </ul>

## エ-2 創造表現コースにおける取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
創造表現コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵画・彫刻・美術史・デザイン等を専門的に幅広く学ぶことができる魅力的な教育課程を実施し、様々な発表の場を設けることにより、生徒に深い学びを促すことができた。</li> <li>● 作品展示会等をとおして、各自の創作力の向上のみならず、社会貢献する意欲や態度を育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門的に幅広く、深く学ぶことを更に充実させるため、生徒の多様なニーズを把握し、教育課程の見直しを図る。</li> <li>○ 創造表現コースの魅力の発信を更に充実させ、社会貢献する意欲や態度の育成を図る。</li> </ul>

## オ 学校が特に重点的に取り組むこと

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
教育課程の編成・実施に係る検討(総合的な学習の時間)		教育課程の編成・実施に係る実践的研究		研究成果の普及	ハイスクールの推進プログラム中間見直し	中間見直しにおいて、5年間の取組の検証・評価を行い、継続する取組や新たな取組等を取捨選択し、新たなプログラムを推進する。			
生徒支援体制の充実(教育相談・生徒指導・進路指導)									
創造表現コースにおける作品発表機会等の更なる充実									

## ② 舟入高等学校

### ア 学校教育方針

校訓である「おのれに徹して人のために生きよう」を教育活動の指針として、活動の主体として自由と責任を自覚し、人の多様性を認めて課題解決に取り組むことのできる生徒を育成する。

### イ 目指すべき学校像

- 確かな学力を育み、生徒の高い志を育成する学校
- 知性と国際感覚を兼ね備えた、豊かな人間性を育成する学校
- 情報を発信し、地域や保護者と連携する開かれた学校

### ウ 目指すべき生徒像

#### 【目指すべき生徒像】

- 自ら学び、考えながら自己を主体的に高めることのできる生徒
- 他者を認め、協働的に課題を解決できる生徒
- グローバル社会の一員として、自分の考えを発信することのできる生徒

#### (卒業時に身に付けておくべき力)

- ・ 学習したことを活用して課題を解決し、主体的に自己の生き方を考える力
- ・ 他者と協働し、他者との関わりの中で自分の考えを高め、課題の解決につなげる力
- ・ 国内外の課題に関心を持ち、その解決のために、自分が果たす役割を考え、行動する力

#### 【10年後にあるべき姿】

- 各分野の専門性と経験に基づく思考を兼ね備えた、知的なリーダーとしての役割を果たす人
- 創造性を持ち、国内外において持続可能で平和な社会の形成に参画する人

#### (社会に出て身に付けたい力)

- ・ 高い志を持ち、主体的に学び続ける力
- ・ グローバルな視点で国内外を相互に捉え、他者と協働して、社会的な課題を解決する力

## エ-1 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業改善や進路指導の充実を図ることにより、生徒の教科学力が伸長し、目標とする進路実現を果たす生徒が増加した。</li> <li>● 既存の教科学力に加え、自ら課題を見つけ、課題の解決に向け、主体的に学習する態度を育成するための授業改善等を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習の充実を図る。</li> <li>○ 主体的・対話的で深い学びを実現することができるよう、校内研修を更に充実させ、教員の専門性と指導力の向上を図る。</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自律した生徒の育成と心身ともに健全な生徒の育成を軸として、学校行事・ボランティア活動・国際交流等を実施することにより、社会性や協調性に富み、主体的に活動する生徒が増加した。</li> <li>● 同年齢の集団内で学ぶ社会性や協調性に加え、異年齢集団における社会性や協調性を育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の自己肯定感を高め、他者を思いやる心をはぐくむことができるよう、他者との関わりの中で課題を解決する協働的な学習活動を実施する。</li> <li>○ 人や社会、自然が抱える課題を主体的に捉え、協働して解決しようとする社会性や協調性を育成することができるよう、校外活動を充実させ、文化や年齢を超えて交流する機会を設ける。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 舟入高校体操や民謡、なわとびを体育的行事に組み込むことにより、生涯にわたって運動に親しむことのできる態度を育成することができた。</li> <li>● 目標に向けて挑戦することにより身に付く精神的な強さをはぐくみ、心身ともにたくましい生徒を育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の心身のバランスのとれた発達を図り、生徒が目標に向けて挑戦する態度をはぐくむよう、教育相談体制等の更なる充実を図る。</li> <li>○ 生涯を通じて、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う教育活動を更に推進する。</li> </ul>

## エ-2 国際コミュニケーションにおける取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
国際コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が主体的に活動する行事や、海外交流事業への参加をとおして、異文化への理解が深まるとともに、適切に自己表現ができる生徒が増加した。</li> <li>● コミュニケーション能力や課題解決力等のグローバルリーダーとしての国際的素養とともに、高い英語力を生かして自分の考えを発信する力を育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際的素養を備えた知的なグローバルリーダーを育成するため、国内外の社会課題に関する関心を高め、自分が果たす役割を考える機会の充実を図る。</li> <li>○ 校内外における国際交流や平和への取組等の活動において、英語を用いて主体的に自分の考えを発信する場面の充実を図る。</li> </ul>

## オ 学校が特に重点的に取り組むこと

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
探究的な学習の充実を図るための体制構築・計画立案		探究的な学習の質的推進・研究			推進プログラム中間見直し ハイスクールレビジョン	中間見直しにおいて、5年間の取組の検証・評価を行い、継続する取組や新たな取組等を取捨選択し、新たなプログラムを推進する。			
英語を用いて主体的に自分の考えを発信する場面の更なる充実									

### ③ 沼田高等学校

#### ア 学校教育方針

学校に誇りと愛着をもち、保護者・教職員・地域とともに支え合い高め合いながら、グローバル化する社会に夢と希望と自覚をもって果敢に挑戦する生徒の育成を目指す。

#### イ 目指すべき学校像

- 全ての教職員が一致協力し、生徒一人ひとりの未来を切り拓く力を引き出し、グローバル化する社会の中で活躍できる人材を育成する学校
- 教育活動のあらゆる場面で規範意識を高めるとともに、生徒の自己指導能力を育成する学校
- 生徒が誇りをもち、活気に満ち溢れ、地域から信頼される学校

#### ウ 目指すべき生徒像

##### 【目指すべき生徒像】

- 基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、向上心を持ってそれらを活用し、主体的に学び続ける生徒
- 地域課題や身近な生活上の課題の解決に向けて挑戦し、他者と協働して自他の人生を豊かなものにしていくことができる生徒

##### (卒業時に身に付けておくべき力)

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、情報を取捨選択し、課題の解決のために粘り強く努力し続ける力
- ・ 自己肯定感を高め、他人への思いやりを持って多様な人々と協働できる力
- ・ 身近な地域や社会とつながり、地域貢献する力

##### 【10年後にあるべき姿】

- 変化の激しい社会の中で、その変化に対応するとともに、他者と協働して課題を解決できる人
- 自信を持って自分の人生を切り拓くとともに、新たな価値を創造し、地域や社会に貢献できる人

##### (社会に出て身に付けたい力)

- ・ 社会の変化に主体的に向き合って関わろうとする力
- ・ 多様性と伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・ 地域や社会とのつながりを踏まえ、課題を発見し、解決する力



### エ-1 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己管理能力を身に付け、家庭学習習慣を確立させるため、学校独自の手帳(My Schedule)を活用することにより、目標に向かって最後まで粘り強く学習する生徒が増えた。</li> <li>● 生徒が主体的に学びに向かい、思考力、判断力、表現力等を身に付けるための授業改善を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校全体として組織的に主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進する。</li> <li>○ 生徒一人一人の進路選択や、地域や社会の要望に応えることができるよう、魅力ある教育課程を編成する。</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝の読書活動の取組により、落ち着いた生徒集団が形成された。</li> <li>○ 学校行事や生徒会活動、地域と連携した活動を通して、自己肯定感が高まり、協働して課題の解決を図ることができる生徒が増えた。</li> <li>● 身近な地域を含めた社会とのつながりを実感し、自己肯定感を高め、多様な人々と協働できる力を更に育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な地域とのつながりを実感し、自己肯定感を高めるため、多様な人々と異校種交流やボランティア活動等の地域連携を推進する。</li> <li>○ 地域や社会とつながり、地域貢献しようとする力をはぐくむため、地域の教育資源との様々な連携を推進する。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育の授業で男女共修選択制授業を導入したことにより、運動への関心・意欲が高まり、体力・運動能力調査の結果が向上した。</li> <li>● 学校の教育活動全体を通じて組織的に体育・健康に関する指導を行い、心身の調和的な発達を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が内面をコントロールする力をはぐくむため、全ての教職員が共通理解を持ち、組織的に生徒を支援する体制を構築する。</li> <li>○ 生涯にわたり健康への関心・意欲を持つことができるよう、健康に関する指導の系統的な取組の更なる充実を図る。</li> </ul>

### エ-2 体育コースにおける取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
体育コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各連盟主催の強化合宿への参加や、県内外の有力校との連携により、指導者の指導力と生徒の競技力が向上した。</li> <li>○ 専攻実技種目の全種目において異年齢交流及び地域活動(指導)を実施し、地域貢献を果たすことができた。</li> <li>● 競技力の向上及び地域で活躍する指導者の育成を更に進めるため、関係機関と連携した取組を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本県、本市を支えるトップアスリートや指導者を育成することにより地域に還元できるよう、関係機関と連携した体育コース将来構想検討会議を設置し、今後の取組を検討する。</li> </ul>

### オ 学校が特に重点的に取り組むこと

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
授業改善に係る校内体制の確立		学校全体で実施する授業改善の推進			ハイスクールレシヨウ 推進プログラム中間見直し				
地域連携の取組についての整理		教育課程に位置づけた地域連携の取組の推進							
体育コース将来構想検討会議で検討		検討結果を踏まえた体育コースの取組見直し							
						中間見直しにおいて、5年間の取組の検証・評価を行い、継続する取組や新たな取組等を取捨選択し、新たなプログラムを推進する。			

#### ④ 美鈴が丘高等学校

##### ア 学校教育方針

進取の気性に富み自己の向上に努める生徒を育成するとともに、お互いの人権を尊重しあう思いやりの心を持った豊かな人間性を培い、人として「自覚と責任」のある生き方ができる節度ある生徒を育成する。

##### イ 目指すべき学校像

- 確かな学力の定着を図り、高い志を持って主体的に学びに向かう力を育成する学校
- 生徒の基本的な生活習慣が確立した規律ある学校
- 課題の解決に向け多様な他者と協働することができる人材を育成する学校
- 保護者や地域の期待に応える教育活動を展開する学校

##### ウ 目指すべき生徒像

###### 【目指すべき生徒像】

- 基礎的・基本的な知識・技能を習得し、課題の解決に向け、これらを活用して主体的に判断し、行動できる生徒
- 他者の異なる考えや立場を理解して協働し、課題の解決に取り組む生徒

###### (卒業時に身に付けておくべき力)

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を習得し、学習したことを活用して、試行錯誤しながら課題を発見・解決する力
- ・ 課題解決に向け、見通しをもって、粘り強く取り組み、自己を振り返り、次につなげる力
- ・ 他者の意見を正しく理解し、自己の主張を分かりやすく伝えるためのコミュニケーション能力

###### 【10年後にあるべき姿】

- 社会と主体的に関わり、家庭・職業生活やボランティア活動等とおして自分の人生を豊かにし、社会貢献できる人
- 多様な他者と良好な人間関係を築き、協働して課題を解決し、新たな課題の発見・解決につなげることができる人

###### (社会に出て身に付けたい力)

- ・ 社会の変化に対応し、自らの人生を豊かにするために、生涯にわたって能動的に学び続ける力
- ・ 他者と協働し、課題の解決に向け、多面的・多角的に分析し、多様な観点から物事を捉え継続して思考する力
- ・ プレゼンテーション能力等、考えの異なる他者に自らの考えを適切に伝える力

## エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アクティブラーニング型授業実践の推進による指導方法の工夫・改善に取り組むことにより、生徒の学習意欲が向上するとともに各教科における授業の満足度が高まった。</li> <li>● 学習意欲の更なる向上に加え、学習活動を通して生徒が成功体験を実感できるよう、授業改善の更なる推進が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科における主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の実践・研究の推進と、ICT機器を効果的に活用した授業研究に一体的に取り組む。</li> <li>○ 生徒が主体的に学び続ける力を育成するため、自ら課題を設定し、課題解決した成果を発表する課題研究発表会を実施する。</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別活動(学校行事・生徒会活動)や部活動を通して、様々な困難等を乗り越えた達成感や、団結力を育むことができた。</li> <li>● 達成感や団結力の醸成に加え、異なる考え方の他者を理解した上で、自己の考えを主張するためのコミュニケーション能力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別活動(学校行事・生徒会活動)において、生徒が主体的に活動し、関わり合うことのできる活動の更なる充実を図る。</li> <li>○ 多様な他者と協働して課題解決を行う学びの更なる充実を図る。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育的行事による生徒の体力増進が図られるとともに、性教育や薬物乱用防止等の講演会や保健・安全指導を行う特別活動等を実施し、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培うことができた。</li> <li>● 体育・健康に関する指導の更なる充実のため、生徒が主体的に活動する機会を増加させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育・健康に関わる教科での学習、特別活動、講演会等の内容を学校保健委員会の活動と連携させた取組の充実を図る。</li> <li>○ 生徒が心の健康について考え、主体的に活動する機会を増加させるとともに、生徒を支援するための教育相談体制の更なる充実を図る。</li> </ul>

## オ 学校が特に重点的に取り組むこと

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
教育課程の編成の検討(総合的な学習の時間・学校設定科目)	教育課程の編成・実施に係る研究		研究成果の普及		ハイスクールヒシヨン 推進プログラム中間見直し	中間見直しにおいて、5年間の取組の検証・評価を行い、継続する取組や新たな取組等を取捨選択し、新たなプログラムを推進する。			
主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の推進	授業改善の成果の普及 授業改善の更なる充実								
キャリア教育の推進(進路指導体制の確立)									

## (2) 専門学科（商業科・工業科）

### ① 広島商業高等学校

#### ア 学校教育方針

地域社会と平和に貢献するとともに、商業のスペシャリストとしてビジネス分野における新たな価値の創造に挑む人材の育成に努める。

#### イ 目指すべき学校像

- 自ら課題を認識し、解決に向けて思考・判断、行動できる人材を育成する学校
- 新たな価値を創造する商業教育を展開し、ビジネスのプロフェッショナルを養成する学校
- 豊かな人間性を育み、社会に貢献する人材を育成する学校

#### ウ 目指すべき生徒像

##### 【目指すべき生徒像】

- 基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、社会の変化やニーズに対応できる生徒
- ビジネスに必要な豊かな人間性を持ち、経済社会の発展に主体的に貢献する意欲を持った生徒

##### （卒業時に身に付けておくべき力）

- ・ ビジネスの理解力と実践力を身に付け、課題を発見し、他者と協働しながら、合理的かつ創造的に解決する力
- ・ 倫理観や遵法精神を身に付け、有為な社会人として自立することができる力
- ・ 自己のキャリア形成の方向性について見通しを持って粘り強く取組む力

##### 【10年後にあるべき姿】

- 社会的・職業的に自立し、実社会での経験や実績を活かし、担当する分野のプロフェッショナルとして、地域産業や企業の発展に貢献できる人

##### （社会に出て身に付けたい力）

- ・ 高等学校で身に付けた専門知識や技術を活かし、幅広い分野で活躍する実践的な力
- ・ 多様な他者と協働し、新たな価値を創造するための活動を推進していく力
- ・ 経済社会を取り巻く環境の変化に粘り強く対応する力

## エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年次に基礎を徹底した上で、2年次から、コース選択制を導入し、コースアドバイザー(外部人材)を活用したことにより、進路実現に向け、主体的に興味と適性を考える生徒が増加した。</li> <li>○ 広島市商ピースデパートを核とした実践的な教育活動を行うことにより、教科で学習した知識・技能を活用する力が身に付いている生徒が増加した。</li> <li>● 経済のグローバル化、情報化、産業構造の変化に伴い、必要とされる専門知識や技術が変化し、高度化しているため、コースのねらいや学習活動を柔軟に対応する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各コースの専門性を高めるため、学習内容を精選するとともに、教育課程の見直しと施設・設備などの環境整備を行い、専門教科の充実を図る。</li> <li>○ グローバル化する社会においてビジネス活動を担うとともに、外国語でのビジネスマナー、接遇の基本を身に付けるための取組を進める。</li> <li>○ 社会のニーズに対応した教育を実施するためコースの見直しの必要性について検討する。</li> <li>○ 専門技術研修を通じ、教員の指導力の向上を図る。</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他者と協働した学習や、体験的な学習(広島市商ピースデパートなど)の質の向上を図ることにより、生徒の公共心や、豊かなコミュニケーション能力の向上を図ることができた。</li> <li>● 職業人としてのコンプライアンスを身に付け、実践する力を育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コミュニケーション能力のより一層の育成を図り、正解のない課題に創造的に取り組むため、探究的な学習や協働学習の手法を取り入れるなど、授業改善を推進する。</li> <li>○ インターンシップや販売実習など、企業と連携した体験的な学習活動を充実させる。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員の生徒指導体制を充実させるとともに、スクールカウンセラーを有効に活用することにより、基本的な生活習慣を改善した生徒が増加した。</li> <li>● 将来職業人として活躍するために必要な体力や忍耐力の更なる育成が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ メンタルヘルスに関して理解し、自己の健康管理ができる能力を育成するため、健康でたくましく生きるための基礎となる体力や忍耐力の強化を図る。</li> </ul>

## オ 学校が特に重点的に取り組むこと

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	
各コースにおけるカリキュラムマネジメントによる特色の創出と特色ある教育活動の推進					ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	中間見直しにおいて、5年間の取組の検証・評価を行い、継続する取組や新たな取組等を取捨選択し、新たなプログラムを推進する。				
コースの見直しの検討と推進										
市商ピースデパートでの実践的学びの推進										

## ② 広島工業高等学校

### ア 学校教育方針

個人の尊厳を重んじ、豊かな人格の完成をめざすとともに、素養に富んだ工業技術者として平和と文化の創造に寄与する人物を育成する。

### イ 目指すべき学校像

- 工業技術の発展に寄与する次世代のものづくりスペシャリストを育成する学校
- 生徒の自主・自律を促進し、職業観の育成を図る中で目的意識を高め、幅広い学力を向上させる学校
- 各種の資格取得や部活動・奉仕活動を中心とした体験活動等を促進し、たくましい人間づくりを進める学校
- 市民・生徒・保護者から確かな信頼を寄せられる学校

### ウ 目指すべき生徒像

#### 【目指すべき生徒像】

- 基本的な生活習慣と基礎学力を身に付け、職業人として学ぶ意志を持ち続けることのできる生徒
- 工業技術者として必要な専門知識や技能、規範意識、倫理観等を身に付け、職業人として主体的に社会貢献することのできる生徒

#### (卒業時に身に付けておくべき力)

- ・ 産業構造の変化、科学技術の進歩等による情勢の変化に対応し、高度な知識・技能を身に付け、生涯を通して学び続けることのできる力
- ・ 職業人として、規範意識や倫理観等をもち、課題解決を図ることができる力

#### 【10年後にあるべき姿】

- グローバル化時代において、産業構造の変化に対応する新たな知識や高度な専門的スキルを身に付けた人
- 地域産業を支え、社会のニーズに対応し、専門的職業人として活躍できる人

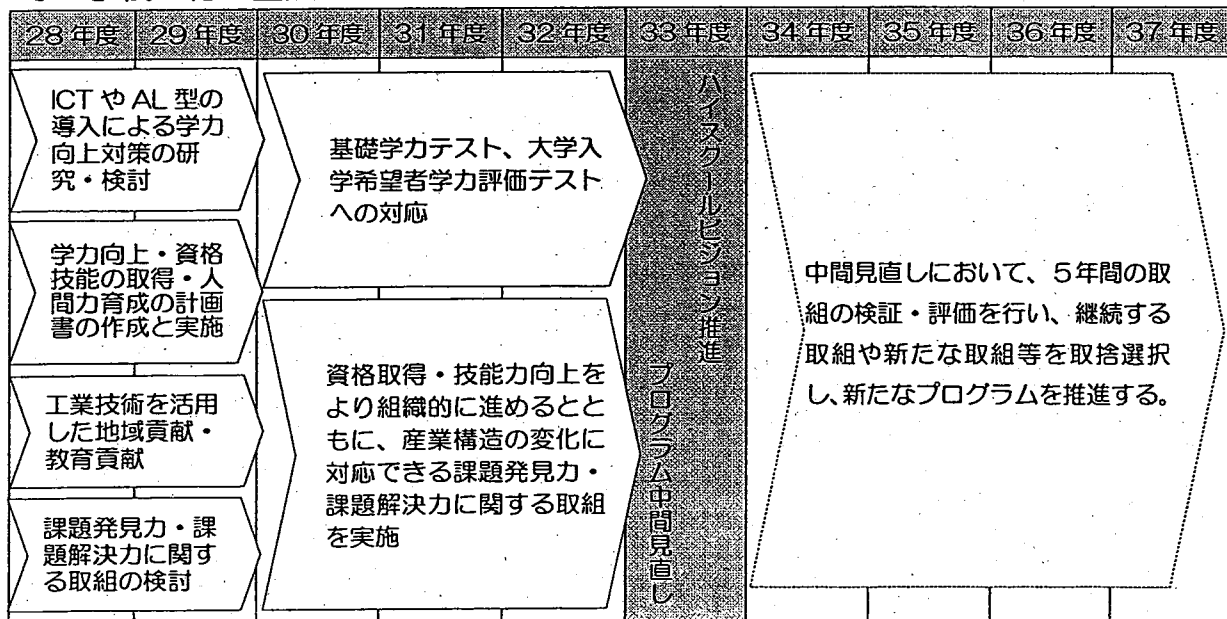
#### (社会に出て身に付けたい力)

- ・ 多様な他者の考えや立場を理解する力
- ・ 相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるコミュニケーション能力

エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(◎)と課題(●)	今後の重点的な取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 義務教育段階の学び直しの実践と、進路探究の授業の充実により、教養の育成が図られ、就職試験における学科試験の結果が向上した。</li> <li>○ 普通科教員のチューター制により、進学を目指す生徒への組織的な支援が図られ、国公立大学への進学実績に効果が現れた。</li> <li>● 学習の到達目標や評価基準が不明確なこともあり、学習意欲が低迷している生徒が少なくない。学習意欲を喚起し、基礎的な学力や技能を定着させることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在学中に身に付けるべき学力や技能の目標を明確化するとともに、適切な評価方法を確立し、学びに向かう力の育成を図る。高等学校基礎学力テスト等への対応策として、ICTの活用やAL型授業等の導入により、授業改善に取組み、学力の向上を目指す。</li> <li>○ 高い志を持たせ、高度な技術力や創造力の育成を図るため、産学との連携による課題発見・解決力の開発に関する取組について検討を行う。</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全校で朝の読書を実施することにより、落ち着いた心が育成され、全校の一体感が生まれた。</li> <li>○ 課題研究の授業、学校行事、工業系部活動等において、地域や大学・企業等と連携することにより、社会性や自己有用感が育成された。</li> <li>● これからの工業技術者に求められる人間性形成について、具体的に検討し、共通認識を持つ必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な生活習慣の確立と互いに支え合う望ましい集団づくりに向け、生徒が主体的に活躍できる機会の充実を図る。</li> <li>○ 職業人として身に付けるべき人間力を明確にし、生徒に自己評価をさせながら、豊かな人間性の育成を目指す。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健康管理についての啓発活動や、養護教諭による健康指導により、生徒の健康管理意識が向上した。</li> <li>● 規則正しい生活習慣が身に付いていない生徒が一部いることから、健康面及び学習面での指導が必要となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動部を中心とした部活動の活性化を図り、体力・精神力の強化を目指す。</li> <li>○ 生活に関する指導を組織的に取り組み、適切な生活習慣を身に付けさせる。</li> </ul>

オ 学校が特に重点的に取り組むこと



## 2 定時制課程及び通信制課程

### (1) 定時制課程

#### ① 広島工業高等学校

##### ア 学校教育方針

個人の尊厳を重んじ、豊かな人格の完成をめざすとともに、素養に富んだ工業技術者として平和と文化の創造に寄与する人物を育成する。

##### イ 目指すべき学校像

- 社会生活に必要なスキルや規範性を身に付け、何事にも向上心を持って学校生活を送ることのできる学校
- 生徒が社会の一員として、地域貢献できる社会性と人間性を備えることのできる学校
- 生徒が自信と誇りを持って卒業することができる学校

##### ウ 目指すべき生徒像

###### 【目指すべき生徒像】

- 基礎的な学力や社会生活に必要なスキル・規範性等を身に付け、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して、積極的に社会に参画しようとする生徒

###### (卒業時に身に付けておくべき力)

- ・ 基礎学力と工業に関する専門的な知識・技能
- ・ 自分の考えを適切に表現し、他者と協力してものごとを成し遂げる協調性とコミュニケーション能力
- ・ 基本的生活習慣と規範意識

###### 【10年後にあるべき姿】

- 働くことの意義を理解し、自ら主体的にキャリア形成していく、社会的・職業的に自立した人

###### (社会に出て身に付けたい力)

- ・ 積極的に人間関係を構築し、多様な他者と適切なコミュニケーションを図ることができる力
- ・ 心身ともに健康で安定した生活を営み、将来にわたって働く意欲を持ち続ける力



## エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 義務教育段階の学び直しと、少人数によるきめ細かな指導により、基礎学力が身に付いた。</li> <li>○ 資格の取得を推進する取組により、工業に関する資格取得者が増え、学習意欲の向上につながった。</li> <li>● 工業の学習に興味・関心を持って入学してくる生徒が少なく、工業に関する学習意欲を高める指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎学力の向上と、工業に関する専門知識・技能を習得させるため、家庭学習の定着を図る。</li> <li>○ 各教科・科目で身に付けさせたい力と、そのための具体的手段を明確化し、生徒一人一人に基礎的な知識・技能の到達目標を持たせる。</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通じた面談を実施し、学習面や人間関係等についてアドバイスすることにより、安心して学校生活を送ることができ、中途退学者数の減少につながった。</li> <li>○ 学校行事を通して、生徒同士が人間関係を深め、コミュニケーションをとることができるようになった。</li> <li>● 困難なことを自分の力で最後までやり遂げたり、進んで人の役に立つことを行うための体験的な学習が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会生活に必要なスキルの向上のため、ソーシャルスキルトレーニングの導入や、ボランティア活動等の自発的な活動の取組の充実を図る。</li> <li>○ 地域との連携を強め、就業やボランティア活動等の体験的な学習の充実を図る。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ きめ細かい保健指導や養護教諭・スクールカウンセラーと連携した取り組みにより、基本的な生活習慣を改善した生徒が増えた。</li> <li>● 生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育全体を通じて、生徒の体力や健康状態等を的確に把握し、計画的に指導を行い、自ら進んで運動を適切に実践する力を培う。</li> </ul>

## オ 学校が特に重点的に取り組むこと

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度以降
SST（ソーシャルスキルトレーニング）の実施 （大学との連携・教職員による実践）					
ICTを活用した義務教育段階の学び直しとアクティブラーニングの 推進による基礎学力向上					
資格取得の奨励と指導の強化 （資格取得応援報奨制度）					
各種工業技術大会への参加					
在籍する生徒 について	2~4 年次生 在籍	3~4 年次生 在籍	4年次 生在籍	新しいタイプの高等学校に 完全に移行	

## ② 大手町商業高等学校

### ア 学校教育方針

思いやりと豊かな心を持ち、自立して生活できる社会人を育成する。

### イ 目指すべき学校像

- 生徒が規範意識を高め、互いに認め合い、支えあいながら、豊かな人間性を育む学校
- 生徒が自己の課題にチャレンジし、意欲をもって学校生活に取り組み、自信が持てる学校
- 生徒の主体的な学びを促し、希望進路の実現を支援する学校
- 地域社会に開かれて地域から信頼され、地域と連携する学校

### ウ 目指すべき生徒像

#### 【目指すべき生徒像】

- 自分の役割を果たし、他者と協力・協働して社会に参画する生徒
- 自分自身の肯定的な理解に基づき主体的に行動する生徒

#### （卒業時に身に付けておくべき力）

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、自分の目標を立てることができる力
- ・ 自分の思いを適切に伝え、他者の意思等を的確に理解し、場に応じて適切にコミュニケーションを取ることができる力
- ・ 社会の一員として共通に求められる規範意識や周囲への配慮などを行うことができる力

#### 【10年後にあるべき姿】

- 自分の役割を果たす過程で、自らの価値や役割との関係を見出し、働くことを通して、他者や社会とかがかわることができる人

#### （社会に出て身に付けたい力）

- ・ 仕事をする上で必要な基盤となる知識・技能を身に付け、今後の成長のために進んで学び続けようとする力
- ・ 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝え、課題解決に向けて、他者と協働することができる力
- ・ 自らの思考や感情を律し、社会の一員として自らの在り方を探究する力

## エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 義務教育段階の学び直しの実施と、資格取得への意識付け及び補習等による学習支援を実施したことにより、生徒の学習意欲が向上し、資格取得を目指す生徒が増加した。</li> <li>● 基礎的・基本的な知識・技能の定着に加え、専門的な知識・技能の定着と、それらを主体的に活用する力の育成が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資格取得の推進や課題研究の充実を図るとともに、学習方法や知識の活用方法を学び、主体的に課題を解決する力を育成するための授業改善を行う。</li> <li>○ 希望する進路の実現に向け、早期から意識付けを行うとともに、キャリア教育の充実を図る。</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 組織的に生徒情報を共有し、生徒と関わることにより、安心して学校生活を送ることができ、不登校傾向の生徒が減少した。</li> <li>○ SST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施したことにより、コミュニケーションを取ることが苦手な生徒が減少した。</li> <li>● 高等学校卒業後を想定し、多様な人々と協働するために必要なコミュニケーション能力の育成が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 価値観の異なる人と適切なコミュニケーションをとることができるよう、SST(ソーシャルスキルトレーニング)と関連付けた教育活動を推進する。</li> <li>○ 安心して学校生活を送ることができることに加え、生徒が困難なことに立ち向かい、失敗等から学ぶことができるよう、生徒を支援する体制の更なる充実を図る。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保健主事・養護教諭・SCと連携した保健指導や安全指導により、健康への意識が向上し、基本的な生活習慣を身に付けた生徒が増加した。</li> <li>● 学校生活のみならず、生徒が生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が積極的に心身の健康を維持することができるよう、食育や安全に関する教育の更なる充実を図るとともに、健康に関する啓発活動の推進を行う。</li> </ul>

## オ 学校が特に重点的に取り組むこと

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度以降
基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る教育活動の推進					
資格取得の推進と課題研究の充実					
進路意識向上・進路実現を図るキャリア教育の推進 (就職コーディネータや外部機関との連携)					
SST(ソーシャルスキルトレーニング)など、心身の健全な発達を促し、 コミュニケーション能力を向上させる教育活動の実施					
	在籍する生徒 について	2~4 年次生 在籍	3~4 年次生 在籍	4年次 生在籍	新しいタイプの高等学校 に完全に移行

## (2) 新しいタイプの高等学校(仮称)

### ア 教育目標

生徒一人一人の個性を最大限に伸ばさせ、社会の発展に貢献できる人間性豊かな活力ある人材を育成する。

### イ 目指す生徒像

- 自己の生き方や進路について主体的に探究し、目標に向かって挑戦を続ける生徒
- 他者を尊重し、豊かな人間関係を築くことができる生徒
- 社会の一員であることを認識し、社会人としてのモラルやマナーを身に付けた生徒

### ウ 教育方針

- 「生きる力」の育成を目指し、「知・徳・体」のバランスの取れた教育を実践する。
- 生徒の社会的、職業的自立を促すため、キャリア教育を充実する。
- 社会に貢献しようとする精神をはぐくみ、公共心を持ち自立した人材の育成を図る。
- 生徒の多様なニーズに応じるため、個々のペースで学習することができる教育体制を整える。

エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について  
平成 29 年 4 月学校設置、平成 30 年 4 月開校のため、記載なし。

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
<p>課程の枠組みに捉われない フレキシブルな学びの実現</p>					<p>ハイスクールレビジョン推進プログラム中間見直し</p>	<p>中間見直しにおいて、取組の検証・ 評価を行い、継続する取組や新た な取組等を取捨選択し、新たなプ ログラムを推進する。</p>			
<p>基礎的な学力やコミュニケーション 能力の向上</p>									
<p>生徒の健全な成長を促し、自己実現 を図るための生徒指導の充実</p>									
<p>キャリア教育の推進</p>									
<p>在籍する 生徒につ いて</p>	<p>1年次生 在籍</p>	<p>1~2年 次生在籍</p>	<p>1~3年 次生在籍</p>	<p>新しいタイプの高等学校に1~4年次生徒が在 籍し、教育活動を推進</p>					

### 3 中高一貫教育校

#### (1) 広島中等教育学校・安佐北高等学校

##### ア 学校教育方針

中高一貫教育校として、生徒一人一人の確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、生徒の個性・能力を最大限に引き出し、幅広く多様な進路への進出を実現する。

##### イ 目指すべき学校像

「高い志を持ち、品格を備えたグローバル人材」を育成する学校

- 知識基盤社会に生きる知的探究能力を育成する学校
- 異なる言語を通じて関係を構築するコミュニケーション力を育成する学校
- 伝統と文化を継承する日本人としての確固たるアイデンティティを身に付けさせる学校
- 多様な考え方を調整し集団をまとめるリーダーシップを育成する学校

##### ウ 目指すべき生徒像

###### 【目指すべき生徒像】

- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、多様な人々と協働しながら、個性や能力を伸ばし、人生を切り拓くことができる生徒

###### (卒業時に身に付けておくべき力)

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、自ら設定した課題を探究し解決しようとする力
- ・ 他者と協働するためのリーダーシップ、フォロワーシップを持ち、異文化など多様な他者と協働して、目標に向かって挑戦する力
- ・ 我が国の伝統や文化を継承する日本人としての確固たるアイデンティティ

###### 【10年後にあるべき姿】

- グローバル化する社会において、高い理想や品格を有し、各分野のリーダーとして世界の人々の幸せのために貢献できる人

###### (社会に出て身に付けたい力)

- ・ 高度で専門的な素養・能力を持ち、様々な分野をつなぎ、新たな価値を生み出す創造力
- ・ 自分の考えを説明し、他者を説得する力
- ・ 相手の能力を引き出し、チームワークを高めるリーダーシップ
- ・ 異文化を理解し尊重するとともに、多様な他者と協働する力

## 工 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	平成27年度までの取組の成果(○)と課題(●)	今後の重点的な取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特色ある英語教育を実施することにより、多くの生徒が目標とする実用英語技能検定(英検)を取得するなど英語力が向上した。</li> <li>○ 少人数指導や習熟度別学習等を行うことにより、学力の向上を図ることができた。</li> <li>● 学習意欲や自ら学び自ら考える力の伸長を図るための取組が必要である。</li> <li>● 基礎的・基本的な内容が定着できていない生徒への、きめ細かな指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語でのディスカッションや広島や日本について発信する力を育成するため、語学研修や海外の学校との姉妹校提携などについて検討する。</li> <li>○ 学習意欲や学んだことを活用する力を高めるため、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習を充実させるとともに、授業改善を推進する。</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行事等を学年の異なる生徒と協働して行うことにより、上級生はリーダーシップが向上し、下級生は上級生から学ぶ姿勢や態度が身に付いた。</li> <li>○ ジョブシャドウやインターンシップ等の実施により、社会への視野が広がった。</li> <li>○ 茶道や武道の授業の実施により、日本の伝統文化や和の精神を尊重する態度を養うことができた。</li> <li>● 生徒同士の深いつながりの構築に加え、関係を修復する力の育成が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒のリーダーシップの更なる向上と生徒同士の関係をより深められるよう、異年齢で交流する取組を充実させる。</li> <li>○ 学びを人生や社会に生かせるよう、地域・企業等と連携し、体験活動の充実を図る。</li> <li>○ ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、生徒の人間関係調整力の向上を図る。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長距離ウォークや体育の授業の取組により、体力・運動能力調査の結果が向上した。</li> <li>○ 安佐市民病院と連携し、「がん教育」を行い、生徒の健康に対する意識を向上させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 継続して、学校行事や体育の授業を充実させ、体力・運動能力の向上を図る。</li> <li>○ 外部から講師を招聘した健康教育を継続して行い、健康や体力の向上に係る生徒の意識を高める。</li> </ul>

## 才 学校が特に重点的に取り組むこと

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     学力向上に向けた6年間を見通した教育課程の編成の改善・実施                 </div>					ハイスクールレビジョン 推進プログラム中間見直し	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;">                         中間見直しにおいて、5年間の取組の検証・評価を行い、継続する取組や新たな取組等を取捨選択し、新たなプログラムを推進する。                     </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     生徒支援・相談体制と進路指導の改善・実施                 </div>									
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     語学研修等の学校行事の見直し・検討・実施                 </div>									
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     姉妹校提携の検討・準備                 </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     姉妹校提携                 </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     異年齢交流に係る取組の検討・準備                 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     異年齢交流に係る取組の実施                 </div>							

## V 教育委員会の役割

### 1 市立高等学校における教育の質の確保・向上に向けた取組

#### (1) 教職員の資質・能力の向上

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
「魅力ある高校づくり」のソフト面の充実に向けて、探究を中心とし、主体的、対話的な「豊かで深い学び」による授業の実現やカリキュラムマネジメントの推進のほか、教員の資質向上等に取り組む。	学習指導要領改訂の趣旨に基づき、豊かで深い学びの実現に向けた教員研修の実施					ハイスクールレビジョン推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実
	各種研修の更なる充実 (管理職、主任・主事、経験年次、教科等の研修など)						
	研究指定校による実践的授業研究	研究成果の普及					
	公開研究授業や校内研修会での指導・助言						

#### (2) 組織及び指導体制の充実

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
「魅力ある高校づくり」の一層の充実に向け、各高等学校における組織及び指導体制の充実を図る。	教職員の組織体制の充実					ハイスクールレビジョン推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実
	外部人材の活用 (スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、就職コーディネータ、体育担当指導講師、特別支援教育アシスタントなど)						

#### (3) 教育研究組織の活性化

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～	
教科等の授業における指導力の向上を図るとともに、学校間の連携を充実させるため、教育研究組織体制を構築する。	校長会等との連絡調整				教育研究組織による研究の実施		ハイスクールレビジョン推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実



(4) 高大接続改革への対応

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
「高大接続改革答申（平成26年12月）」で示された高等学校教育改革、大学入学者選抜改革（高等学校基礎学力テスト（仮称）、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）導入等）に対応できるように、教育の質の向上を図る。	高等学校教育改革への対応 〔次期学習指導要領への移行、アクティブラーニングの視点からの授業改善、カリキュラムマネジメントの充実など〕					ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実
	高大連携の推進						
	大学入学者選抜改革への対応						
	高等学校基礎学力テスト（仮称） （情報収集と各校への周知）			テストの実施			
	大学入学希望者学力評価テスト（仮称） （情報収集と各校への周知）			テストの実施			

(5) 地域・産業界との連携

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
地域・産業界との連携を図り、職業人として求められる人材の把握と育成を目指し、実践的な職業教育の充実を図る。	(再掲)	キャリア教育に係る実践例の整理・検討	【専門学科】 インターンシップ制度の更なる充実	【普通科】 新たなインターンシップ制度の実施		ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実
	(再掲)						
	学校と就職コーディネータとの連携の推進						
	地域の産業界と連携した実践的な職業教育の推進						

(6) 教育環境の整備

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
各学校が特色ある取組を推進できるように、老朽化した施設設備やICT関連の施設設備の整備を検討する。	各校が特色ある教育を推進するための施設整備の検討					ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実
	老朽化した施設設備の修繕・改修						
	ICT関連施設設備の充実						
	関係課との協議						

## 2 20年後を見据えた市立高等学校の在り方の検討

### (1) 学科改編等の検討

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
学科・コースの改編等について検討する。	市立高等学校将来構想検討委員会（仮称）における学科・コースの改編等についての検討			検討結果を踏まえた学科・コースの運営		ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実
	通級指導教室の設置に係る検討		検討結果を踏まえた通級指導教室の設置・運営				

### (2) 入学定員の検討

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
各学科、コースの入学定員について検討する。	市立高等学校将来構想検討委員会（仮称）における入学定員についての検討		市域の中学校卒業生等の状況を踏まえ、必要に応じて入学定員を増減			ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実

### (3) 通学区域の検討

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
各学科、コースの通学区域について検討する。	広島広域都市圏発展ビジョン、広島市教育大綱を踏まえ通学区域等の検討			検討結果を踏まえ、必要に応じて通学区域を変更		ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実

### (4) 県立・市立・私立の機能分担の在り方の検討

検討内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
広島市教育大綱を踏まえ、広島広域都市圏の公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方を幅広く議論する場の設定について検討する。	広島広域都市圏の公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方を幅広く議論する場の設定についての検討			広島広域都市圏の公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方の検討		ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	中間見直しを踏まえた教育の充実

登録番号	
名称	ハイスクールビジョン推進プログラム
主幹課所在地	広島市教育委員会事務局学校教育部指導第二課 広島市中区国泰寺町一丁目4番21号 (〒730-8586)TEL:504-2704
策定年月	平成29年(2017年)1月